

3. トドマツ林の施業

1. 試験担当者

北海道支場長 寺崎康正 ほか
全研究室共同

2. 試験目的

1. 稚樹の発生の操作を解明する。
2. 稚樹の定着に関与する因子を明らかにし、定着方法を確立する。
3. 林分型ごとの収穫と生長の関係を解明し、最終的には漸伐作業にたいする収穫予想表を調製する。
4. 伐採と枯損の関係を解明する。

3. 昭和44年度の経過とえられた結果

野幌、定山渓、夕張、層雲峠の国有林（試験地）において次の試験および調査を行なった。

1. 発芽を阻害する病菌の調査（リゾタトニヤ菌、ボトリチス菌、フザリウム菌の害を確認）
2. “ 昆虫及ネズミの調査（ヒメネズミによる稚苗の被害を確認）
3. 稚苗の消長と気象要因の検討をおこなった。そのうち接地気温、A層と鉢質土層との接点の地温、土壌凍結については試験区を設けて観測中。
4. 収穫の予測のため 60×60 m の林地を固定し、毎木調査、樹冠配置図を作り、稚樹を含めた試験区の生長測定をつづけている。
5. 漸伐後の稚樹の消長調査のため、3箇所を固定して観測中。
6. 害虫密度の変動調査をおこなった。

伐倒木にたいしてはキクイムシ類が寄生し、その増殖率はかなり高い。伐採地区に残存する立木のうち、枯損したものはカミキリムシおよびキクイムシの寄生をうけた。しかし害虫密度が伐採に影響された確証は未だない。

7. 飼木により害虫の発生機構を観測中。

4. 昭和45年度の試験計画

年次計画に基いておこなうが、具体的試験項目をあげれば、次のとおりである。

1. 稚苗の発生と定着条件

- 土壌と植生のちがいが定着にどのように関係するか。
- 更新に安全な稚樹の大きさをどのように決定するか。
- 除草剤による更新の可能性

2. 林分型ごとの収穫と生長

- 更新樹および残存木の生長の追跡
- 更新調査法の確立
- 単木生長に対する環境条件の影響度

3. 伐採と枯死との関連

- 被害回避のための伐採木の選定及び伐採方法
- 伐採による害虫密度の変動